

国際光器オリジナル経緯台

# T-rex組み立て説明書

当説明書は、標準仕様である「T-rex01」一式による説明としています。他のモデルも基本的には同じですから、ビクセン製の三脚とのセットや他の特注モデルも含め、本説明書を付属いたしております。

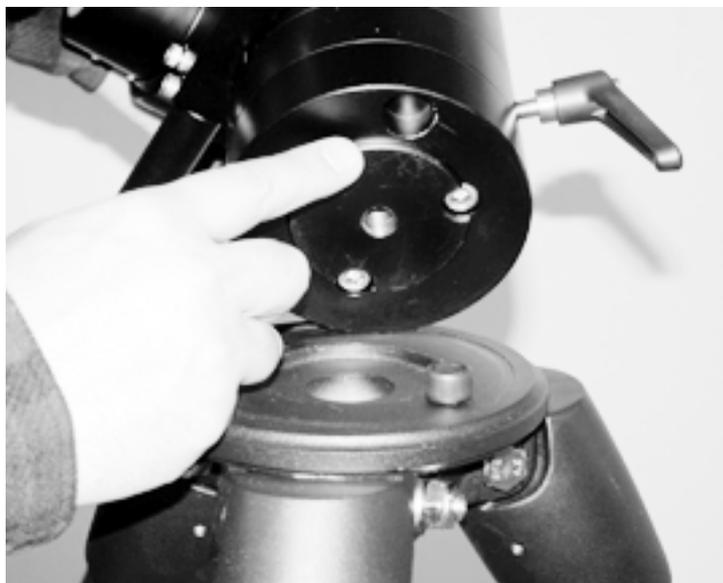
当説明書をお読みにになり、安全に楽しくご使用下さい。なお説明書にある画像はすべて先行量産型となっているため、細部において現行型とのデザイン面での違いがあります事をご了承願います、また本商品について予告なしに仕様/デザインの変更がある場合もございますがこの件につきましても前もってご了承願いますようお願い申し上げます。





### ( 1 ) 三脚の組み立て

GMT-128三脚を箱から取出し、地面に立て脚を開き、倒れない状態とし、架台との接続に使用するセンターボルトの地面側先端にある、ノブナットを取り、別パーツのアイピーストレーの中央部にある穴へセンターボルトを通し、ノブナットを仮止めしておきます。このナットは最後に締め付けますから、この段階では仮止め程度にしておいて下さい。アイピーストレーはフラットな面が上面となります。



### ( 2 ) 架台と三脚の接続

T-rex本体を三脚架台の上へ載せて下さい、この時、三脚架台の上面にある突起（キャップスクリューの頭）がT-rexの下面にある円形の窪みに当てはめられるよう位置を合わせておいて下さい。

注意！！この作業中は必ずT-rex本体を手で支えておいて下さい、三脚と固定できていない状態で三脚架台の上にあるT-rex本体は不安定な状態なので手を放すと落下の危険性があります！



### ( 3 ) 架台と三脚の固定

( 2 ) の作業での位置決めができれば、三脚側にあるセンターボルトを使い三脚とT-rex本体をしっかりと固定して下さい。先にも書きましたが、これらの作業中は、絶対にT-rex本体から手を放さず、常にT-rex本体を手で支えながら作業を行って下さい！

この段階で3方に突き出たアームが三脚に当たる位置としてから、( 1 ) で仮止めしておいたアイピーストレーとセンターボルトもノブナットでしっかりと固定しておいて下さい。



#### ( 4 )ホルダー用シャフトの取り付け

スーパーナビゲーター用ホルダーを  
ご購入の方のみへの説明となります

スーパーナビゲーター用ホルダーを取り付けるためのシャフトを取り付けます。付属のホルダーユニットより、シャフトとM8のキャップスクリーンを取出して、T-rex本体のアーム部へシャフトが外側へ突き出すように取り付けして下さい。取り付け穴が2箇所ありますが、どちらでもかまいません。締め付ける際は、シャフト先端にある穴へ、レンチやドライバーの先端を差し込めばキャップスクリーンを締めやすくなります。



#### ( 5 )ホルダーの取り付け

( 4 )で取り付けしたシャフトへホルダーのステーをはめ込み、ノブネジで固定し、取り付け角度をご自由に設定して下さい。これで完了です。

ホルダー下部上面とスーパーナビゲーター底面それぞれに付属のベロクロテープを貼れば、スーパーナビゲーター本体の不意の落下も防げます。



#### ( 6 )微動ハンドルと

アリ溝プレートロックボルトの取り付け

付属のヘクスレンチを使い、微動ハンドルを両軸に取り付けて下さい。微動ハンドルに付いているイモネジがT-rex側にあるシャフトの平面部へ当たるよう位置を決めてからしっかりと締め込んで下さい。アリ溝プレート用ロックボルトは2個付属しており、どちらも同一形状なのでアリ溝プレートにあるネジ穴へそのままねじ込んで下さい、これで完了です。

### (7) 組み立て完了



最後にクランプレバーを両軸に取り付け、エンコーダーケーブルを差し込めば基本的にT-rexの組み立ては完了です。組み立て前の状態ではクランプレバーをねじ込む穴には、他のネジがねじ込まれていますが、これは内部への埃などの進入を防ぐための物なので、クランプレバーの取付の際にはこれを外して下さい。

### (8) 付属のヘクスレンチについて



画像左より、M8キャップスクリュー用 / M10イモネジ用 / M5イモネジ用 / M3イモネジ用。上記の4種類が付属されています。実際に良く使うとすれば、M8キャップスクリュー用とM5イモネジ用です。

M8キャップスクリュー用はスーパーナビゲーターホルダーや本体の各部、M5イモネジ用は微動ハンドルの着脱に使用します。



M10イモネジ用レンチは両軸の側面にある、M10イモネジのための物ですが、このM10イモネジは内部にあるエンコーダーシャフトと架台の回転軸を接続している部分にアクセスするための蓋の役割をしているもので、万が一エンコーダーシャフトと架台の回転軸の接続部が弛んだ場合など、もう一つの付属レンチである、M3イモネジ用のレンチを使用するための穴の蓋となっています。



したがってなにがしかの理由でエンコーダーシャフトを外したり締め付けたりする場合はM10イモネジ外してから、内部にあるM3イモネジにアクセスして下さい。

## ビクセン製SX-HAL130アルミ三脚をご使用される場合

ビクセン製SX-HAL130アルミ三脚とT-rexを接続する際は、三脚架台にある方位調整用の突起物を、T-rex側にある、この突起部分をクリアーする切り欠き部分へ納めるような位置を決めてから、三脚側にある、固定用のセンターボルトによってしっかりと締め付け固定して下さい。

### クランプレバーについて

付属されているクランプレバーはクラッチ機能付きですから、レバーの向きによって微動ハンドルや鏡筒などへ干渉する場合は、親指で中心のボルトの頭を押さえながら、人さし指と中指でレバーを手前へ引けばレバーの部分のみフリーな状態となりますから、その状態でレバーの方向を都合の良い方向へ向けて、そのままレバーを元の位置に戻して下さい。そうすればレバーが邪魔な場所に位置する事はありません。

### 微動ハンドルおよびギアユニットの調整について

T-rexはその出荷時に最良の状態となるよう最終調整してから出荷されていますから、表題にあるような調整は必要ありませんが、長期の使用による撓みなどによって調整が必要な場合が発生するかも知れません。そんな場合でもT-rexは構造的に、それら調整部分をブラックボックス化することなく、ユーザーサイドでも調整が可能な構造となっています。

微動ハンドルが直結されているシャフトは、それ自体がウォームギアとなっており、四角いそのカバー部分はそれ自体がギアの噛み具合の調整機構となっています。真上から見ると、頭の露出したキャップスクリューが4本あり、これが引きネジと固定ネジの役割を果たし、その内側にある4本のイモネジが押しネジの役割を果たし、この8本のネジを調整する事で、本体のギアとウォームギアの噛み合わせを調整できるようになっています。またシャフトそのものの回転に対するテンションの強弱の調整は、四角いカバーの先端（微動ハンドルの反対側）にある真鍮製の埋め込みネジで調整でき、さらに前述したキャップスクリュー4本をすべて取り去ると、カバーと微動ハンドルが直結されているシャフト/ウォームギア全体を経緯台本体より分離でき、分離した時にしか見えない位置に2箇所あるイモネジでも調整できます。これらの調整はギアの噛み合わせが、強過ぎても弱過ぎても、ギアを破損させる場合がありますから、調整を行う場合は十分に機構を理解した上で、調整そのものに自信のある方のみ行って下さい。調整に自信が持てない場合は国際光器までご連絡下さい。それでは、T-rexでさまざまな鏡筒を自由自在でお楽しみ下さい！不明な点があれば下記までご連絡下さい。

株式会社マゼラン 天文機材部門 国際光器 担当/松本 (dobkoubo@kkohki.com)

〒615-8215 京都市西京区上桂大野町7-7 TEL: 075-394-2625 FAX: 2612

営業時間: (月曜-金曜日) 10AM ~ 6PM (日曜日) 10PM ~ 6PM 土曜祝祭日定休

メールの受信・ご返信は平日の月~金曜日( ~ 18時)とさせて頂いております。

ホームページ: <http://www.kkohki.com>

